

## 第4章 武家社会の発展と世界の動き

島根県 公立中学校教諭

### 1 概要

帝国書院の中学校歴史教科書の第4章「武家政治の発展と世界の動き」は学習指導要領の内容「(4) 近世の日本」を扱う章である。織豊政権を経て、国内的には封建制度が確立した時代である一方、世界的には第5章で扱う市民革命期を迎える欧米社会の近代化に伴い、わが国をはじめ、アジア諸国との経済的・社会的格差の芽が生じた時期でもある。世界が大きく変わろうとするうねりの中で、わが国は全体としては安定した平和的な社会であり、庶民が力をつけた時代であると思われる。

章のはじめに、小和田先生のコメントとして載っているように、「長い間戦争のなかった時代」を支えた社会、制度、人々の暮らしのようすについて、関連づけながら理解していくことが大切である。この章は、徳川政権の政治にしくみを中心に展開されることが多く、学習が羅列的になる場合がある。しかし、強大な権力の元となる、幕府の経済政策、とくに外交については、近世の日本社会の重要な課題であると考えられる。

### 2 教科書の特徴

#### (1) 『外交』を軸として時代をとらえる

江戸幕府といえば、「鎖国」「身分統制」というイメージを持つ生徒は多い。また、鎖国

はキリスト教との関連で理解する生徒が多い。この一面を否定するつもりはないが、この時代を、構造的にとらえる視点として、中学生としての理解は、近世日本の外交政策、とくに経済的独占としてとらえさせたい。

この教科書は、織豊政権から徳川政権まで一貫して、諸外国との関係を意識した記述が多いことが特徴である。

#### ① 織豊時代

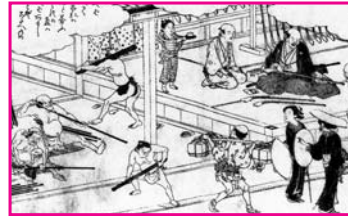
・南蛮貿易→「世界史を深めよう 2」

～一つに結びつく世界

→「歴史の舞台④」堺

② 銀でつながる世界

<鉄砲鍛冶>「中学生の歴史 初訂版」p.93



鉄砲伝来のその後について、教科書に記述されていることが少ないが、南蛮貿易のもたらした利益が鉄砲の大量生産につながり、信長の意に止まる一因となる。また銀の流通支配など貿易支配の効果は絶大であるという実感をも、この時代を静観視していたように見える家康に大きく影響したはずである。

・朝鮮との関係→朝鮮侵略

朝鮮から伝わった文化

教科書の記述は、「検地刀狩」よりも多く、朝鮮侵略の意味について、生徒に考えさせる

ことができる。近代の「日韓併合」の学習、また、現代史や公民的分野の学習の基盤となる学習であり、朝鮮側の資料は参考になる。



釜山城の戦い「中学生の歴史 初訂版」p. 97

## ②徳川政権と外交

教科書では「幕府が貿易を統制し、日本人の出入国を禁止した政策」をのちに鎖国と呼ぶようになったと説明してある。長崎貿易の関係から、「鎖国」政策は、清とオランダとの貿易ととらえる生徒も多いが、教科書に示されている『世界に開かれた四つの窓』をてがかりに幕府の外交政策についてとらえさせることは近世日本の構造的な理解のために必要である。

このような学習は平和な社会の基盤が幕府の経済支配にあることに気づかせることができる有用な資料である。

### 明確に示された『世界に開かれた四つの窓』



琉球王国との関係があつてのことであることはいうまでもない。



「中学生の歴史 初訂版」p.107 106 109 111

## (2) アイヌ・琉球王国の人々の暮らし

帝国書院の教科書は、最新版のときから、アイヌ・琉球の記述が充実している。近世の日本だけでなく、東アジア交易圏としての両地域の位置づけが明確であり、中世での学習を基盤として学習することもできる。

また、わが国の歴史と文化、そして現代の課題と現状を理解させることは、今後ますます重要となると思われる。しかし、生徒の立場からすると、「倭国」の通史と関連づけた学習がされないために総合的な理解ができていない。近代以前のアジアには、国境を超えたつながりがある。

この教科書の特徴である東アジア交易を、通史の学習を通して学ぶことができる。たとえば、「幕藩体制」を生徒に具体的にイメージさせることは難しい課題の一つであるが、琉球王国と薩摩藩との関係の資料を通して理解させることができる。徳川の外交とは別に、薩摩藩にも二重鎖国ともいわれる密貿易や使節の交歓などを可能とした近世日本のしくみについて資料（後述「琉球に出したきまり」）から理解させることが可能である。やがて来る薩摩藩等による倒幕の動きはこのような琉球王国との関係

### 3 授 業 案


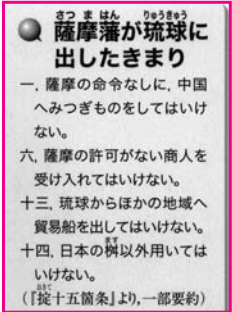

(1) 単元 平和で安定した社会の基盤となった徳川政権の外交 (2時間)

(2) ねらい

- ・鎖国政策の目的について多面的にとらえ、江戸幕府の外交政策を理解させる。
- ・琉球王国との関わりや薩摩・幕府の政策を通して東アジア交易について理解させる。
- ・絵画資料から多面的に判断し、白地図などを用いて自分なりにまとめることができる。

(3) 展開

過程	学 習 活 動	支援・指導上の留意点	教科書の資料
導入	<p>秀吉の朝鮮出兵後について学習を振り返る</p> <p>徳川政権の課題について考える</p> <p>①朝鮮との国交回復 ②貿易による利益拡大 ③キリスト教政策</p>	<p>第一時の導入とする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南蛮貿易による利益や銀の流通について、既習の内容を振り返る</li> <li>・秀吉・信長の政策を思い出させる</li> </ul>	<p>p.97亀甲船 耳塚</p>  
展開	<p>①について確認する</p> <p>②③について年表などから確認する</p> <p>* 島原・天草一揆のもたらした影響について考える</p> <p>「鎖国」政策について確認する</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 2px solid pink; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>世界に開かれた四つの窓口</p> </div> <p>4枚の資料を切り取って白地図にはる(前述の資料)</p> <p>教科書を参考にして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理していた藩等</li> <li>・交易相手</li> <li>・特徴</li> </ul> <p>を各自まとめる</p>	<p>わかりやすいように表にまとめて提示する</p> <p>流れが簡単につかめるように年表などを準備しておく</p> <p>思想統制をしながら、貿易による利益を得るために行った</p> <p>白地図を配布する</p> <p>机間指導を行う</p> <p>グループで協力してもよいことを伝え、能率よく作業する</p>	<p>「中学生の歴史 初訂版」 p.97</p>

	<p>*この交易によって開かれた窓口を持っていた幕府や藩の利点はどんなことか話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の文化（情報）</li> <li>・経済的利潤</li> </ul>	<p>第一時の終末とするワークシートを確認する</p>	
	<p>ワークシートで確認し、薩摩藩と琉球王国の関係について考える</p> <p>那覇港のようすについて教科書の絵図から気づいたことを判断する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球王国の歴史について振り返る</li> <li>・薩摩藩が鎖国中であるのに貿易ができたのはどうしてか。</li> <li>・幕府と藩との関係ではそれぞれ独立性が保たれていた（幕藩体制）</li> <li>・独立していたら幕府は困らないか</li> </ul> <p>琉球王国と薩摩藩にとっての利点をそれぞれ考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球～王国としての独立が保たれる</li> <li>・薩摩～密貿易による経済的利益・外国の情報がわかる</li> </ul>	<p>第二時とする</p> <p>教科書p.70をみて振り返る（深入りしない）幕藩体制について理解を深める例とする。</p> <p>考えにくいようであれば、既習事項の確認をさせる</p> <p>どのようにして藩への統制をしたのか教科書（p.101）で確認させる</p>	<p>那覇の港のにぎわい</p>  <p>「中学生の歴史 初訂版」p.108</p> <p>薩摩藩が琉球に出したきまり</p>  <p>「中学生の歴史 初訂版」p.108</p> <p>慶賀使・謝恩使のようす</p>  <p>「中学生の歴史 初訂版」p.109</p>
まとめ	幕府と薩摩の外交政策について自分なりの感想を書く	薩摩藩がやがて倒幕の中心となることにふれておく	

この授業案、ならびに評価の項目にある単元計画は、第4章の前半部分を中心に構成している。本章は、このような強大な幕府権力によってもたらされた町人や本百姓層の成長により人々が生き生き活動した時代でもある。

誌面のつごうで本誌では省略するが、「タイムスリップ」などを使った授業や田沼意次の政治への再評価などを取り上げると、時代像のダイナミックなとらえができ、新たな視点で授業が構成できると考える。

## 4 評 価

### <学びを意識化する評価表の活用>

近世日本の制度やしくみの学習は、はじめにも述べたように、本来構造的な関係理解が必要であるにもかかわらず、各制度等を単独で理解しようとする傾向にある。そこで、生徒自身が、学習の到達点をイメージしたり、意識化したりすることができるように、単元導入のはじめに、評価表（単元プログラム）の作成が必要であると考え。複雑な時代関

係を意識化することは学びを確実にするために有効である。自己評価項目やグループ内評価を行うために、評価表を作成する時間をとることが必要である。自己評価項目を作成する過程は自己の学びを意識化するとともに、到達度評価としての「テスト」「構造図等の作品」以外にも学習過程の学ぶ態度の評価にも有効である。実態に応じて評価項目を例示しておいてもよい。自己評価力をつけるために段階的に導入するように年間指導計画上に位置づけておくことが必要である。

### <政治のしくみの関係に着目した例>

単元名 平和で安定した社会を築いた徳川政権の構造

時			評価の視点	自己評価の視点
1	江戸幕府の誕生  幕府の力の源 ～平和な社会が続いたのは？～	1603年まで ①政治～大名の配置と幕藩体制（本時） ②経済～国内 ③外交 ④社会～身分制社会	p.100～111を参考に して自分なりの考え を持ち幕府の政策を あげることができる	例 友だちと相談しながら教科書の内容を確認 かめる <評価>
2	徳川政権の経済的基盤	徳川の直轄領を確認しよう ～質と量～	資料から直轄領の実態をつかむことができる	例 地図や資料を丁寧に見る <評価>
3	徳川政権下の外交①	長崎貿易の独占	「鎖国」の目的と実態について資料から判断し、徳川の外交所得政策について理解する 東アジア交易圏について教科書資料等から理解し幕藩体制との関係をつかむ	例 江戸時代の外交を白地図などにまとめることができる <評価>
4	徳川政権下の外交②	アイヌと琉球		
5	と幕藩体制	琉球王国と薩摩藩		
6	身分制社会 ～領民支配	武士・百姓・町人 ～秩序を保つために～	(略)	
7	平和な社会が続いたのはなぜか ～関係図を書こう	構造図の作成 幕府支配のポイントと弱点を考える（時代の変化を考える）	諸政策の関係を構造図に表し今後の時代の変化を予想する	例・友だちと協力して構造図を作る ・課題を話し合う <評価>

学習を振り返って